

2018
(H30)

卯月号
LA268

XA299-マガジンの

右馬允太郎

寒のつらさを冬よりようやく終って春が来た。〜と喜んでいたら卯月7日(土)には大西山の桜が(だれ)様も含めて一斉に咲き出さくり。その後寒い日が10日程続いたので楽しめたおこし/日の桜祭りにはすかり散って葉桜祭りとなり少々淋しい大西山公園でした。たらたら新緑はふたふたの頼もしい緑となり強いエネルギーの塊を私達に投げつけて来ます。清流線は緑の中には藤の花の紫がきれいです。暖かい春はお花がこんなにきれいなんだと改めて教えられた春 椿、ツラネアオイ、モクレン、一人静、カタクリ、全ての花の量が多さが目立った春でした。今元気に咲いているのはサクラ草とソコゾク草、とんとん増えて中を効かせています。

暖かいとこんなに量の収穫出来るの〜?と驚いているのか、竹の子お嫁に来て以来初めての出来事です。竹の子を多くの方に御裾分けしているこの状況、主人や息子はううといい

大きき竹の子を手元で獲って本当にうれしいです。今日は允一家の遊びに来て長男の光(ひかり)の斜向をかき上り竹の子狩りを楽しみました。光はもうすぐスキ活発に動き回り大疲れの様で、最後の時間ぐっすりお昼寝のよかったです。この体験を忘れないように、おたいていなんーかなと思いました。

冬の2ヶ月東京でマカに励んだ久美と今野良仕事に追われて毎日忙しかろうです。おスキの初着者元気の干鶴さんにとやさしく、今日は田んぼの代掻きをしてあげます。スプリングの舞上手に舞ってくださるように。

次男の亮とようやくお店を開店する運びとなり一緒にやる友達も伊那谷入りして準備が始まり暖気そうにみえてとこの不安気な緊張を父親にからめてはリラックスしようとしているみたいで正介さんも解るのでしょうか。さめるよになっていきます。

各々の春の1人1人に来たように、恐いながらも1歩前への勇気を持ちスタートしようとしています。友子母は穏やかにガタガタしている私達を尻目に静かに座っています。書か得意なので(何かを書く事)を頼まれると美しい字体で書いて下さり私たちの自慢とすると、この頼り放し、存在感大の友子母です。